

「只見ユネスコエコパーク」が描く 只見町の未来

14回目となる只見ユネスコエコパークの連載も今回で最後となります。なかなかわかりづらいエコパークの魅力を少しでも身近に感じていただけるように工夫してお伝えしたつもりではありますが、いかがだったでしょうか。最後に、ユネスコエコパークを進めていった後に、将来に只見町がこんな風になってくれれば、という一つの夢を描いてみたいと思います。

1. 只見町に暮らす私たちは、自然環境や野生生物を守りながら、それらを持続可能な形で利活用していくことを様々な場面で心がけています。また、これを実践してきた先人たちの知恵や文化（山菜・キノコのなどの食文化、編み組細工などの伝統工芸、早乙女踊りなどの伝統芸能、など）に学び、継承・発展させる地域活動が熱心に行われています。
2. 農業では、自然環境に配慮した農業水利施設が整備され、環境保全型農業推進の努力も相まって、只見町の農産物とその加工品は安心・安全、美味しい、環境にやさしいブランド品として広く認知され、多くのリピーターが定着しています。
3. 林業では、豪雪地に適応した管理技術が開発され、スギ林はブナなどの広葉樹林に転換されてきています。間伐材は薪にされ、ストーブやボイラーの燃料として地域内の低炭素社会や経済循環に貢献しています。スギやそのほかの多様な広葉樹の用材が揃う地域としても有名になっています。
4. 内水面漁業では、河川は川幅を広く保ち、多様な環境が創出される管理がされ、多くの魚が生息する遊漁のメッカとして賑わっています。
5. 加工業では、天然資源や農産物、伝統技術を活かした製品が開発され、地域資源の活用と伝統技術が確実に継承・発展し、町の人・自然・文化のストーリーが発信されています。一部の製品は産業化が図られ、新しい雇用の場も生まれています。伝統技術の継承を目指す移住者もあり、空き家の活用にもつながっています。飲食店、宿泊施設などでも地場のものが提供され、訪れる人たちを楽しませています。
6. 観光業では、只見町公認自然ガイドによるエコツアーが展開され、只見町の自然環境や伝統的な生活文化を学び、体験するツアーが好評です。また、教育機関の環境教育の場としても注目され、農家民泊などのグリーンツーリズムも定着し、自然や暮らしを活かした観光のブランドが確立しています。
7. 公共事業では、自然環境と生物多様性を守りつつ町民の生活向上を実現しており、先進的なモデルとして全国から評価され、注目を集めています。企業活動でも持続可能な発展を意識した活動が推進され、それに賛同する支援者が増え、好循環が生まれています。
8. 小中学校、高校では、町の自然や文化、歴史を活かしたE S Dが実践され、特色ある教育課程と都会にはない環境が子育て世代の移住につながっています。その中で育った子供たちは、つちかわれた経験や知識を活かして只見町の将来を担う活躍をし、あるいは、ほかの地域の発展にも貢献しています。
9. 只見町の自然や文化は、多くの研究者を魅了し、多様な調査研究が展開され、それらの成果は只見町の発展のために役立てられています。

こうした人間と自然との共生を実現する取り組みは、町内外で共有され、互いに連携し、ますます発展しています。この様子は世界へも発信・共有され、国際社会はそれを参考とした活動を行い、世界平和の輪が広がっています。只見町に暮らす私たちは、都市部にはない独自の価値観を築き、自信と誇りを持ち、充実と満足感のある暮らしをしています。